2017 明治安田生命 J2 リーグ 第 25 節 vs. ザスパクサツ群馬

7/30（日）18:00 kick off　@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

岐大通2017

2017J2■順位表■第24節

勝点、得点、失点、得失点差、岐阜戦の戦績（岐阜から視て）

1	湘南	47p	27	20	+7	A△	
2	福岡	46p	34	20	+14	A●	
3	徳島	43p	38	21	+17	A△	
4	長崎	41p	31	25	+6	H△	
5	横浜FC	38p	33	23	+10	H●	A●
6	名古屋	37p	37	35	+2	A△	
7	岡山	37p	28	28	0	A△	
8	松本	36p	32	19	+13	H●	
9	東京Ｖ	36p	35	29	+6	A●	
10	千葉	36p	41	36	+5	H●	
11	水戸	36p	28	26	+2	H○	
12	町田	35p	33	27	+6	A○	H●
13	大分	35p	32	28	+4	H●	
14	山形	35p	23	27	−4	H△	
15	京都	32p	33	31	+2	A△	H○
16	愛媛	32p	31	34	−3	A●	
17	金沢	28p	26	39	−13	H○	
18	岐阜	26p	33	38	−5	---	---
19	熊本	23p	26	38	−12	H●	
20	山口	19p	24	34	−10	H△	
21	讃岐	14p	26	42	−16	A○	
22	群馬	14p	16	47	−31	A○	

次回HomeGame

第27節 vs.ファジアーノ岡山
8/11（金・祝）18:00
@岐阜メモリアルセンター
長良川競技場

大酒場 ホームラン。
TEL. 058-263-5201
名鉄岐阜駅前（三菱東京UFJ銀行隣り）
年中無休　午後３時から営業

Living in Woods
本庄工業株式会社
http://www.honjo-woodream.com/

岡田歯科医院
岐阜市加納新本町1-23
tel：058-273-8998

ALADDIN
何も無い店だけど‥
心の花が咲く‥
何も無い店だけど･･･
心　癒される‥
忘れかけていた喫茶店がある
岐阜市昭和町３丁目（木ノ本公園東）

today's guest：ザスパクサツ群馬

2016 J2 11勝12分19敗　勝ち点45：17位

直近の対決と結果

2017/05/03
J2 - 11節@正田スタ

群馬 0-2 岐阜
田中パウロ淳一、難波宏明 scored.

ここ３試合の公式戦の結果

FC岐阜	ザスパクサツ群馬
2017/07/22　J2 - 24節@長良川 岐阜 0-2 町田	2017/07/22　J2 - 24節@正田スタ 群馬 1-1 熊本
2017/07/15　J2 - 23節@ニッパツ 横浜FC 1-0 岐阜	2017/07/16　J2 - 23節@正田スタ 群馬 1-3 福岡
2017/07/12　天皇杯@長良川 広島 2-1 岐阜	2017/07/12　天皇杯@正田スタ 川崎Ｆ 4-0 群馬

●夏休みシーズンに入ったＪ２。その最初の試合である 7/22（土）第 24 節・ホーム町田戦は、暑さで集中力を欠いたのか、自分たちの単純なミスで前半に２点を献上したＦＣ岐阜。後半には勢いを盛り返すものの、やはりプレーの精度が悪いためゴールを奪うことは出来ず、結局は０－２での敗戦。試合終了直前には＃10 庄司悦大が退場したこともあり、自滅したと言っても過言ではない試合結果に、挨拶に来た選手たちに向けて、ゴール裏からは厳しい声が飛ぶ場面も見られた。
ＦＣ岐阜の順位は変わらずに 18 位だが、降格圏（21 位・讃岐、22 位・群馬）のクラブが勝ち点を１積み上げたことで、その勝ち点差は 12 に縮まってしまったし、直近下位（19 位）の熊本も勝ち点差３と追い上げられてきている。一方、プレーオフ圏（６位・名古屋）とは勝ち点差 11 と、こちらもやはり差が開いてしまった。しかし、５位（横浜ＦＣ）から 16 位（愛媛）までの 12 チームが勝ち点差６にひしめき合っており、激しいプレーオフ圏争いをしているのが現在のＪ２だ。なんとか、このグループに追いつき、降格圏からは遠ざかりたいＦＣ岐阜。ここが正念場となるだろう。
さて、今節の対戦相手は、その最下位・22 位のザスパクサツ群馬だ。昨年は 17 位だったが、今年はチームバランスが悪く、ほぼ最下位に沈んでいる。山口・讃岐・福岡を相手に３連勝を達成したが、その後に７連敗。前節に熊本と引き分けて連敗はストップしたが、８試合未勝利と苦しい状況が続いているチームだ。岐阜としては絶対に勝たなくてはならない相手だが、しかし、楽な対戦相手でもない。下位のチーム・残留争いをしているチームの方が、なりふり構わず死にものぐるいで向かってくるだろう。昨シーズンの我々がそうだったことを忘れてはいけない。昨年、“裏・天王山” の試合で北九州に敗れたことで、５連敗を喫して最下位に転落し、残り４試合となった 11/3（木・祝）・第 39 節の対戦相手が、当時 17 位の群馬だった。そして、岐阜が劇的な２－１での逆転勝利を収め、そこからホーム３連勝を達成して、奇跡的とも言えるＪ２残留を決めたことは、サポーター諸兄の記憶にも新しいところだろう。あるいはまた、これも昨シーズン 7/20（水）第 24 節、当時 17 位だったＦＣ岐阜は、当時最下位だった金沢と対戦して０－１で敗戦。その結果、ラモス監督（当時）が解任されたことも、まだ多くのサポーター諸兄の記憶に残っていることだろう。このように、最下位チームとの試合は展開が難しくなることが多いが、普段以上に結果が求められる、いわゆる “勝ち点６の価値がある” 試合となる。群馬は現在 47 失点と、守備に問題がある。ならば、シンプルかつ積極的にゴール前に攻め込み、シュートを撃ってゴールを狙っていく姿勢が求められるだろう。
これまでの通算対戦成績は、岐阜の８勝６分７敗 20 得点 23 失点。ホーム戦でも４勝３分２敗６得点５失点と、僅かながら勝ち越している。前回の対戦となった 5/3（祝・水）第 11 節・アウェイ戦は、＃７田中パウロ淳一、＃24 難波宏明のゴールで２－０の勝利。３連勝・６試合無敗を達成した。今節もまた、そういう記録が始める成果を手にしたい。
群馬の最も注意すべき選手には、やはり＃26 高井和馬を挙げなくてはならない。一昨年の大卒ルーキー江坂任、昨年の大卒ルーキー瀬川祐輔（ともに現・大宮）に続き、３代目となる “26 番” を背負う大卒ルーキーは、現在チーム総得点の半分、８得点を叩き出して独り気を吐いている。彼を自由にさせないことが、岐阜の勝利の絶対条件であるし、また、同じ大卒ルーキーの＃11 古橋亨梧や＃17 大本祐槻には、それ以上の活躍を見せて欲しい。一方で今節の岐阜は＃10 庄司悦大が出場停止。これまで全試合フル出場を続けてきた “岐阜の心臓” が欠けた穴を埋めることができるのか、出場する選手たちの奮起に期待したい。
蒸し暑い岐阜のナイターゲーム。最後まで相手に走り勝って勝利を手にするためには、僕らが最後まで勝利を信じて、時には厳しく、選手の力になる拍手と声援を送り続けることが重要だ。そして夏の花火に負けない、大きな勝利をみんなで掴み取ろう。
（ささたく）

名鉄 JR
「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。
『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から
徒歩３分。
休：月曜日

投稿募集！！

gidaidohri@gmail.com

【第 24 節】岐阜 0-2 町田

●梅雨も明け、ついに岐阜の猛暑がやって来た…っていうか、梅雨明け宣言した途端、空梅雨だったのが何回も豪雨が降ってませんかね？（苦笑）それはさておき、まあ暑いのなんのって…僕らだって少し動くだけでバテるんだから、試合をする選手の消耗は非常に激しいだろう。そして 18 時キックオフだと、前半はまだ日中の熱が残っている。そしてサッカーは前後半の 90 分で決着をつけるもの。だから、暑い前半は無理せず、ボールを回して相手を走らせて疲れさせ、後半になったら攻撃のギアを上げ、相手の足が止まったところで隙を突いてゴールを決め、勝利を手にする…うん、その発想は正しいというか、万が一僕が監督でも、そういう戦術を採ると思う。しかし、だ。その前半のうちに自滅して２点を“献上”してたんじゃ、ゲームプランも何もが壊れてしまうじゃないか…（溜息）。町田の選手が前線から激しくプレッシャーに行くためか、それともほぼ固定メンバーでシーズンの半分を戦ってきて、やっぱり疲労が溜まっているためか。選手たちの動きやパスの精度が落ちていて、相手にボールを奪われるシーンが目立った。それに、町田は岐阜をしっかり研究してきたように思う。ＤＦラインの底から #10 庄司を起点とした攻撃が始まる場合、左右どちらかのＣＢにボールが渡ると、まず間違いなく、そのままのサイドのＳＢにパスされ、そのサイドのウイングにパスが…っていうパターンが、あまりにも固定化されてしまっていて、ボールが動き出すと、町田の選手たちは人数をかけてそのサイドに蓋をするから、結局岐阜の攻撃陣は前方のエリアにすり抜けることが出来ずにボールを後ろに戻したり、あるいはボールを奪われたり。もっと、シンプルに中央から縦にボールを通したり、あるいは同サイドに流れると見せかけて逆サイドに振るといった、バリエーションをつけた攻撃で相手を迷わせないと、相手は守備の選択肢が少なくて守りやすい。そして岐阜の選手たちの方が、ホームスタジアム・長良川の暑さに集中力を欠いて、簡単に相手に裏をとられて縦に抜けられ、あるいは守備陣がボールを奪われて、失点…（溜息）。今節は単純なミスからだったけれど、これまでも似たようなパターンでの失点が、いくら何でも多すぎやしないだろうか？もちろん、それでもポゼッションで攻め続けて多く点を獲って勝つのが大木サッカーの目標だというのも分かる。でも、「ハイプレス・ショートカウンター。できたら上手いポストプレイヤーが１トップ」が王道必勝パターンのＪ２で、必然的に相性が悪くて失点が多くなるポゼッションサッカー。相手よりも得点を奪うことが、もしも難しいのであれば、もう少し守備にも力を入れた方が良いのではないだろうか。そんな事を前半に僕は感じていた。

ただ後半になると、（ロッカールームで大木監督の喝が入ったかな？）攻撃のギアが入り、また攻撃のバリエーションも増え、そして町田の選手たちの足も止まり、流れは一気に岐阜に傾いていた。だけど、ここでも決めきれない。相手選手が自陣ゴール前にブロックを固めてしまい、何度も惜しいシーンはあったけれど、そこを崩し切れない。岐阜は今節、シュート 10 本撃ったらしいんだけど、枠内シュートは半分以下の４本？一方の町田は、シュート数は８本と岐阜より少ないけれど、枠内は７本と岐阜より多い。このあたりも勝敗の決め手となったかもしれない。そして時間が経つにつれ、前半に献上した２点が、徐々に重くのしかかる。町田の選手たちは、激しく、したたかに、そしてひたむきに、粘り強くゴールを守り続ける。そんな中、アディショナルタイムに＃10 庄司が接触プレー時に、故意に相手を蹴って一発レッドで退場。疲労とイライラが溜まっていただろうとはいえ、実に勿体ない、そしてキャプテンとしてはやってはいけないプレーだった。猛省して欲しい。この退場で勝負あり。そして時間切れ。“負けた”というよりも“自滅した”と表現する方が相応しい、そんな試合内容だったと思う。さすがにゴール裏からは、ブーイングや厳しい声が飛んだ。罵声は聞き流して良いから（苦笑）、厳しい声はしっかりと受け止めて欲しい。

さて、大事な群馬戦に #10 庄司がいないのは少し（かなり？）厳しいけれど…全く違うチームの方向性を模索するチャンスかもしれない。勝ちに拘って、この悔しさを晴らしてくれ！（ささたく）

●「カードをもらうな。ケガもするな。」監督からこう指示された選手が主人公のマンガがあったけど、もう 20 年以上も前のことなんだね。フランスＷ杯の時に完結したマンガだもんな。アディショナル・タイムに赤紙を提示されて退場していく選手を見て、そんなことを思い出してしまっていた。念のために、振り返ってビジョンを見たけれど、やっぱり消えていたのは 10 番の名前。とうとう、その時が来てしまったな。といっても、突然こんな考えが閃いたワケではなく、今季のウチのサッカーを見ていれば「庄司は替えの効かない選手」ということは一目瞭然で、彼が累積警告やケガで出場できなくなったらどうなるのか？といった疑問や不安はずっとあって、それゆえ仲間との感想戦の中で冒頭のセリフ、高杉和也が鹿野監督から受けた指示が、そのまんまウチの 10 番に当てはまるよね？という話をしてたからビハインドの試合中であるにもかかわらず、ついついいらんことを思い出してしまった次第。

試合自体はミスで自滅。先制されたのはビクトルの判断ミスが大きいけれど、ウチの最終ラインの裏を狙われて、それが一発でハマったという感じ。２失点目は、ねぇ。もう、何回目かね？最終ラインでパスミスは。それを町田が狙ってきてるというのは、試合開始直後からの前からのプレスでわかっていたとは思うんだが……。とにかく、この日の町田は前からプレスをかけて、それを頻繁な給水とか、ＧＫ高原のあからさまに時間をかけたプレース・キックとかで体力回復を図っていて、戦術戦略が徹底されてるな～と感心してみたり（皮肉です）。静止ポーズのない五郎丸みたいなプレース・キックだったけど、元からあんな蹴り方してたっけ？高原は。けど、終了した瞬間、町田の選手が何人か倒れ込んでたのを見て「町田はやりきったんだな。」と感じた。内容はどうあれ、約束事や戦術をやり抜けるか、どうか。それが今の順位となって表れているような気がしてならない。アッサリすぎるくらいカンタンに失点。中央からの攻めもミドルも少ないからサイドをケアされて行き詰る。これでは勝ち点が増えないのもしかたがない。ポゼッション率では変わらず圧倒しているが、それはゴールを奪うための手段に過ぎない。問題はそこから先。それは選手が一番よくわかっているハズ。次節の群馬戦。大木サッカーの中心、代名詞とも言える存在が不在という状況をどう乗り切るか？しかも、相手は数少ない下位クラブ（苦笑）。こういう相手に対し、きっちり勝ち点差を広げられるか？ここで勝ち点差を 15 にできれば、残りの試合数から考えて残留に関してはかなり優位に立つことになる。今までは、そういう直接対決ではなかなか結果が出せなかったけれども、そろそろ悪しき伝統は断ち切ってもらいたい。ミスパスさえなければイケるはず。蒸し暑さを吹っ飛ばすような万歳四唱がやりたいです！（ぐん、）

●試合序盤からの町田ゼルビアの選手の運動量。普段ならば「ふっ、無謀だな。岐阜の暑さでいずれ脚が止まる」と思っただろう。でもこの試合では違った。「90 分間走り切れるだけの訓練をしているだろう、それを見せてみろ」という相馬監督のメッセージを感じた。さすがに試合終盤は動きは減ったが、カラダを張り、集中を切らさず、クリーンシート（無失点）を貫いた。試合終了の笛が鳴り、ピッチに倒れたのは町田の選手だった。おそらく、町田のサポーターはそんな選手達をとても頼もしく、そして誇らしく思ったことだろう。

以上、町田側の視座で書いてみた。いまのＦＣ岐阜には足りないものがある。あるからこそ、この戦績。チーム構築途上なのはわかっている。選手も言っているように、どんどん良くなっている、のだろう。おそらく。けれど、そろそろ目の前の試合で「結果」を残してほしいんだ。（吉田鋳造）